

平成29年度「新学術領域研究（研究領域提案型）」事後評価結果（所見）

領域番号	1401	領域略称名	西アジア文明
研究領域名	現代文明の基層としての古代西アジア文明—文明の衝突論を克服するために—		
研究期間	平成24年度～平成28年度		
領域代表者名 (所属等)	常木 晃（筑波大学・人文社会系・教授）		
領域代表者 からの報告	<p>(1) 研究領域の目的及び意義</p> <p>現代の西アジア地域は、常に世界の不安定要素とされ、西洋社会との対立において理解されています。しかしながら、人類史的視座から文明を俯瞰したとき、現代西アジア社会の特質である強い血縁関係や唯一神への深い信仰、さらに西洋や日本社会の基盤となっている農耕経済、都市社会、物質文明といったものが皆、古代西アジア文明に起源するという事実に突き当たります。したがって古代西アジア文明の研究は、現代文明の根幹部分を正しく理解するために極めて重要かつ必須のアイテムとなります。本研究領域では、古代西アジア研究に携わる文理様々な分野の人材を連携させることで、「西アジア文明学」というべき新たな研究領域を構築することを目指しました。西アジアは、現生人類の拡散、農耕の開始、冶金術の発明、都市の形成、文字の発明、領域国家の発達、一神教の成立など、人類史の大転換の舞台であり続けました。私たちは、西アジア各地でのフィールド調査を通じて実証的研究を積み上げ、その特筆すべき「先進性」と「普遍性」の根源を抽出し総合することで、なぜ、どのように西アジア文明が現代世界の基層となり得たのかについて解明することを試みました。そして最終的に、研究成果を現代の社会に還元し、古代西アジア文明から見た新しい文明論を創造することを目的としました。</p>		
	<p>(2) 研究成果の概要</p> <p>「人類史の転換点」、「史料から見た都市性の解明」、「古環境と人間社会」、「文化遺産の保存」の4つの研究項目の中に、13の計画研究と4つの公募研究を組織して研究を進め、以下のような成果をあげることができました。</p> <p>1) 西アジア文明に共通し、他の文明と比較したときに西アジア文明に特徴的となる先進性と普遍性をもたらした要件を、地理的、環境的、文化的な側面から探究しました。西アジアには人類社会の発展に必要な自然環境が豊富に存在すること、そうした環境に次々と人間グループが到来し多様な活動を展開したことを、自然環境と人文的要素の相互依存関係という視点から考察し、歴史プロセスの中に位置づけて示すことができました。</p> <p>2) 領域全体として、個々の研究テーマを連鎖させることで西アジア文明史全体を一連の歴史プロセスと捉え、そこに共通し、かつ継続する要素を探究しました。その結果、イスラーム以前の西アジア文明をダイナミックな有機体と捉えてその原動力を探究するという、これまでわが国では全く試みられなかった新しい研究領域を創成することができました。</p> <p>3) 文明の衝突論のような一方的で政治的な思想が現代西アジア社会の公正な理解を困難にしている現状に対し、基層文化の実証的研究を着実に積み上げることで新たな西アジア地域像を創造し、その成果を内外に普及させることができました。</p>		

<p>科学研究費補助金審査部会における所見</p>	<p>A (研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があった)</p>
	<p>本研究領域は、西アジア地域を対象とする考古学研究を基盤に、生態・農業・技術などの諸相から西アジアの古代文明を複合的・学際的に解明した点及び、政情・治安状況が不安定な地域において研究対象を慎重に選定しながら国際的水準から見て優れた研究成果を挙げた点が、高く評価できる。一方、近現代史研究との接合において課題は残るものの、新学術領域の形成に至る重要な前進があったと評価でき、研究領域の設定目的に照らして、期待どおりの成果があったと認められる。</p> <p>中間評価結果の所見において指摘された、総括班のイニシアティブによる各計画研究の連携強化などの点についても、組織の再編成を行うなど、適切に対応されていた。</p> <p>研究成果として、先史学系の計画研究と自然科学系の計画研究との間に優れた融合が見られた一方で、それらと歴史時代の政治・経済・思想を通時的に扱う研究との接合による、文明史の総合的研究という面では、今後の課題とすべきところもある。</p> <p>5年という限られた期間に、また現地の政情不安による制約がある中で、国際的水準から見て優れた研究を推進し、国内外で広く研究成果公開と情報発信に努め、かつ当初の目的の一つであった新たな研究拠点構築を実現したことは高く評価できる。また、若手研究者を対象とした研究成果公開支援に積極的に取り組んだほか、若手研究者の研究教育機関への就職において一定の成果が得られた点でも評価に値する。</p>